

Mémoire 2024

第85回 菊花賞(GI)



最後の一冠を鋭い末脚で奪取 アーバンシク

逞しく成長を遂げた素質馬が、最後の一冠を獲得した。

日本ダービー馬ダノンデサイル、皐月賞2着のコスモキュランダが1番人気と3番人気。セントライト記念で重賞初制覇のアーバンシク、3勝クラスの日本海Sを制して臨むヘデントールが2番人気と4番人気。春の実績馬か、それとも上がり馬か。クラシック最終戦は、道中で先頭が何度も入れ替わる激しい展開となった。

最初にハナに立ったのは日本ダービーでも逃げたエコロヴァルツ。しかし1周目スタンド前でノーブルスカイ、続いて毎日杯と神戸新聞杯を逃げ切っているメイショウタバルと次々に先頭が替わる。さらに1コーナーからは、今度はピースワンデュークが前に出た。

レースは3コーナーから大きく動いた。シュバルツクーゲルとアドマイヤテラが2頭で一気に上昇し、先を争うように直線へ。そしていつの間にか、序盤は中国の後方で折り合って進んでいたアーバンシクもこの直後にまで上がってきていた。

直線、外に持ち出されたアーバンシクはアドマイヤテラを交わし、さらに伸びる。春は皐月賞4着、日本ダービー11着に終わったが、ひ

と夏を越して大きく成長。セントライト記念に続く力強い末脚で、後続に2馬身半の差をつけてラスト一冠を掴み取った。

開業11年目の武井亮調教師はJRA・GI初制覇。「もともとすごい能力があると思っていました」と明かし、この日も「ひいき目もあると思いますが、いちばんいい馬なんじゃないかと思えるぐらいでした」と、その高い素質を開花させられたことを喜んだ。

C.ルメール騎手は前年のドゥレツァに続き、42年ぶり史上4人目の菊花賞連覇。「3,000メートルを乗り切るのに必要なスタミナと能力の高さ、その両方を持っている馬です」と、満面の笑みでパートナーを称えた。

第85回菊花賞(GI)

10/20 京都競馬場 3,000m(芝・右・外) 晴・良 18頭									
着順	馬名	性齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/着差	人気	通過順位	
1	アーバンシク	牡3	57	C.ルメール	武井 亮	3:04.1	②	⑧⑧⑤③	
2	ヘデントール	牡3	57	戸崎 圭太	木村 哲也	2 1/2	④	⑪⑬⑧⑤	
3	アドマイヤテラ	牡3	57	武 豊	友道 康夫	ハナ	⑦	⑮⑫②①	
4	ショウナンラブント	牡3	57	鮫島 克駿	高野 友和	クビ	⑥	⑩⑩⑩④	
5	ビザンチンドリーム	牡3	57	A.シュタルケ	坂口 智康	クビ	⑨	⑫⑮⑮④⑩	

アーバンシク
栄光の蹄跡

13

スワーヴリチャード 115 L
アーバンシク
エッジスタイル(ハービンジャー)
2021.3.16 生 安平・ノーザンファーム



牡3
栗
57

C. ルメール
1979.5.20生 B型
南シルクレーシング
武井 亮(美浦)

2024.9.16 中山
朝日杯セントライト記念GⅡ
14ト 2人 1(115)
57⁺。 C. ルメール
芝2200良 2:11.6

2024.5.26 東京
日本ダービーGⅠ
17ト 4人 11(110)
57⁺。 横山 武史
芝2400良 2:25.4

2024.4.14 中山
皐月賞GⅠ
17ト 6人 4(114)
57⁺。 横山 武史
芝2000良 1:57.5